

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

A
2026
JUNE
[第2067回]

各地の歌を昇華した、最晩年の傑作

ベーラ・バルトーク

Béla Bartók (1881–1945)

バルトークは、祖国ハンガリーや東ヨーロッパの民俗音楽を作曲の糧としました。各地の民謡を集めるため、わざわざ重たい蓄音機を持って行き、村人の歌声の録音もしています。彼の音楽は、そうして集めた民謡と、20世紀の現代的な響きが合わさった個性的なものです。晩年に書かれた《管弦楽のための協奏曲》は、彼の創作の総決算とも言える作品です。作曲した時バルトークは、やがて彼の命を奪うことになる白血病になっていました。それでも音楽は、時にはユーモアも交え、最後は生命力がみなぎるように輝かしく結ばれるのです。



移住先のアメリカで研究に没頭し、作曲から離れていたバルトーク。病の中で書き上げた本作はまさに再起の一曲だ

©IKE